

特別委員会の報告

6月定例議会において秋田内陸縦貫鉄道存続に関する調査特別委員会が新たに設置されました。

議会では、高校統合、行政改革、病院経営と合わせて、4つの特別委員会が今、審査中でありま

す。どれをとっても、市民の生活と、仙北市の財政に係る重要な課題であることから、そのつど、審査の経過を掲載いたします。

高校統合問題 調査特別委員会

県では、平成12年に前期の計画(13年から17年)として角館南高校を「統合により共学化を行う」と規程した。

16年には(18年から22年)たたき台として県議会に示し、角館地区を一校に統合する案を、県教育委員会が「第五次高等学校総合整備計画・後期計画」として17年に作成した。

特別委員会は「角館高校・角館南高校の並立存続を実現する会」より設

置の要望があり、19年2月に設置したものである。

地域づくりの中で高等教育の方針・少子化も含めて高校問題をどのように捉えていくのか、角館地区は2校の中での統合であり、1校より2校が望ましいことの強力な理論づけを、県教育委員会へどのように示していくのか等話し合った。

第3回委員会では2高校訪問し、学校の経営方針・南高校の共学化魅力ある学校づくり・校舎の老朽化の問題等について話し合った。

第4回では市内中学校



耐震度調査が必要となった老朽化の角館高校

回の協議を重ねたものの、方向付けは出来ていない。

角館南高校同窓会では改選後の県議会に請願書を提出しているが、継続審査となっている。

行政改革 特別委員会

市議会では、市の運営をスリム化するため、行政改革特別委員会を設置している。

この特別委員会は、平成19年4月からこれまでに10回開催し、主に議員の報酬や福祉施設の民営化について協議を重ねて

いる。委員会においては、市当局と問題意識を共有し、特に重点的な改革を進めなければならぬ事項として、市民福祉部に



行政改革特委で論じられている寿楽荘。食事の入所者の皆さん

化を取り上げてきた。4月から8%の議員報酬の引き下げや、たざわ清眺苑の民営化などが、これまで議論の結果としての主な成果としてあげられる。

また、たざわ清眺苑は、来年4月から民営化するという目標に向けてスケジュールに沿って、課題を検討中である。

この中で、大切なことは、入居者の待遇であり、特別委員会では、民営化によって、入居者の方々に不利が生じる事のない

市立病院等経営 に関する特別委 員会

よう最大限の配慮が必要であることを指摘している。民営化にあたり、施設の移管方法や施設に勤務する職員の処遇問題など、具体案の、つめ作業はこれからであるが、特別委員会からも、さまざまな提言を行いながら、確実に一歩ずつ進めたい。

かくのたて桜苑、にしき園、角館寿楽荘についても、順次、民営化を進めるが、特に寿楽荘については、老朽化により施設の痛みがひどく、その方向性を今年度中に結論付けたいとしている。

行政改革の、もう一つの大きな課題は、保育園の運営形態である。旧町村のままで、それぞれ運営形態となっている保育園についても議論を深め、市として、理想的な運営の、在り方を模索することとしている。

合併や統合により、現在、使用していない市が所有する土地や建物などの処分や利活用の検討や、改革に対する職員の見識啓発など市当局と、共に進めたい。

特別委員会は平成19年度に設置され、審査の方向性として、仙北市の2つの市立病院と診療所が市民にどのような医療サービスを提供していくのか。そのための規模と機能の分担をどう計っていくのか、また厳しい経営が続いている2つの市立病院がどうしていけば生き残れるか、存続をすすめるために、どのような病院であればよいのか審査している。

現状の田沢湖病院においては、医師不足によりやむなく救急指定を取り下げているし、病床利用率も43%と、総務省の公立病院の経営改善を促す改革ガイドラインでは病床利用率が3年連続で70%未満の病院は診療所化するなど、平成20年度中に改革プランを作成するように求められている。

今年度は改革プラン作成のため、病院経営改革推進室と、大学病院長、



「医療施設として残す」方向付けが決まりつつある田沢湖病院

仙北市医師会長（角館ブロッコ）、市立病院正副院長、診療所長、県と市の担当者など14名のメンバーで、『市立病院等改革推進計画策定委員会』が設置され、第1回の策定委員会において、方向性として市立病院の運営を一本化による再編ネットワーク化を目指すことの了解をされている。

今後数回の開催により年内には改革推進計画の作成を目指している。特に医療資源（医師、薬剤、機器）の集中まで踏み込み、他会計にまたがっている診療所や病院間のネットワークも含めた再編をしていくのが基本的な考えである。

あるいは分院の形になる。策定委員会では財政についての議論はなされていないようだが、当然財政の問題が根底にあるので、田沢湖病院の赤字をどうするかのレベルではなく、市立病院全体を見る立場で経営改善と市民の医療ニーズに合わせることの視点からの協議となり特別委員会としては、市民が安心して暮らせる視点により慎重に審査を続けていく。



- 委員長 佐々木章
- 副委員長 真崎寿浩
- 委員 田口寿宣
- 門脇健郎
- 青柳宗五郎
- 田口喜義
- 浅利則夫
- 藤原万正
- 田口勝次
- 戸沢 清

秋田内陸縦貫鉄 道存続に関する 調査特別委員会

厳しい経営状況のなかで、存続問題に直面している秋田内陸縦貫鉄道について、仙北市議会として、今後の在り方等について調査を行うために、秋田内陸縦貫鉄道存続に関する調査特別委員会を設置した。

7月3日に第1回目の委員会が開催され、当局より秋田内陸縦貫鉄道の現状の説明と、仙北市としての存続に向けた取組み等についての説明を受けた。

引き続き、特別委員会の、今後の進め方等について、協議をした。